

主の洗礼

第一朗読 イザヤ 42・1-4、6-7

第二朗読 使徒言行録 10・34-38

福音朗読 マタイ 3・13-17

2026.1.11 9:30 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

今日、わたしたちは主の洗礼の祝日のごミサを捧げています。

イエス様がヨルダン川で洗礼を受けられたという出来事を思い起こすと同時に、わたしたちはそれぞれ、自分たちが受けているキリスト信者としての洗礼の意味も改めて思い起こす機会でもあると思います。

わたしたちにとっての洗礼は、神様との繋がりを回復する、その神様の呼びかけに応える、その恵みを受けるものであるし、また、イエス様が洗礼を受けられたのは、神様のほうから人間との繋がりを回復するため、わたしたちのいろいろな罪や思い煩いをご自分のこととして担ってくださる、わたしたちと一致するという意味を持って、それを示すために洗礼を受けられたというふうにキリスト教会では信じています。

わたしたちもお互いに相手と一致する、そしてそれは神様との繋がりだけではなく、イエス様が全ての人の救い主であられる、そのイエス様に繋がるということは、全ての人と繋がっていくための恵みを受けたと行うことができると思います。

ルカの福音書では、「悔い改めのために洗礼を受けなさい」と洗礼者ヨハネが述べ伝え、洗礼を受けに来た人たちが「では、わたしたちはどうしたらいいでしょうか」と尋ねるという部分が加わっています。尋ねた人に対して、「服を2枚持っている人は持っていない人に分けてあげなさい」、あるいは「誰から何かを騙し取ったり脅し取ったりしないようにしなさい」、そういう生活の中での具体的な指示が与えられているというのがルカの福音書では語られているわけです。(ルカ 3・1-14 参照)

今日朗読しましたマタイの福音書の中にはその場面はないけれども、しかしその心は同じです。イエス様に繋がるっていうのは、観念的な、あるいは目に見えない世界

の話、あるいは死んだ^{あと}後の話ということではなくて、自分の中に、あるいは自分のことだけって閉じこもってしまう意識を、神様を通して他の人との一致、それは他の人と共に生きるということへと導かれる、その恵み、その呼び掛け、そしてその呼び掛けに答える恵みをいただくというのが洗礼の意味だと思います。

その恵みをいただくためには、「ヨルダン川での洗礼」が必要である、と。それは聖地の川が聖なるものだということではなくて、「ヨルダン」という川の特徴、そして名前——「ヨルダン」っていうのは「下っていく」という意味を持っている。だから、わたしたちが本当の意味での^{へりくだ}遜り、自分中心ということから遜っていくときに、神と繋がり、そして他の人と繋がっていくのだということを表しているということが出来ます。

遜りっていうのは、ただ「自分っていうのはダメな者です」って自分の不完全さを意識するというだけではなくて、また神様を敬遠する——敬して、敬いながら遠ざかる——ということではないのだ。キリスト教の遜りは、今日の洗礼者ヨハネがイエス様の呼びかけに応じて、その役割を自分の力を超えるものでありながら、でも神様、イエス様がおっしゃるのだからそれを果たすっていう、積極的な意味での遜りを忘れてはならないわけです。

そういう意味で「自意識からの解放」です。自分が至らない、あるいは相応しくない者であるということは当たり前。でも神様はそれを用いることができるんだということを改めて——神への信頼に意識をシフトすると言いましょうか、「自分が」、「自分が」って、それはほんとの遜りではないわけです。自分が優れているとか、自分のためについていう自己中心的なことは、他の人を見下すとか自分のことばかりを考えるとということ以外に、「自分はダメな者です」、「自分は分からないんです」、「自分はできない」っていうその意識もやはり自分中心なわけです。

そうではなくて、わたしたちを呼ばれたイエス様の呼びかけに従う。それが今日の洗礼者ヨハネが「わたしのほうが洗礼を受けるべきなのに」って、でもイエス様がおっしゃるからその通りにするっていうことに表れてます。

御聖体拝領されるときに、よく、横のほうによけながら拝領しようとする人がいます。高円寺教会でそれが流行っているのかなと前からとても気になってたんです。

けど、皆さんが——わたしもですけど——御聖体をいただくに相応しくない者であることは分かっています。それは典礼の中で言葉で宣言しています。だけど、神の前に真っ直ぐに立って、「イエス様がおっしゃるからいただくんです」という意識を——意識を自分ではなくてイエス様に向けるならば、わたしたちはその瞬間に全人類を代表して神の恵みをいただきたいし、いただくんですっていうことを、祭壇の正面に正対する^{せいたい}という形で表現する。それは、形や動作のことだけではなくて、心のあり方にも繋がっていくのではないかと思います。

わたしたちがそういう意味でいろんな形での自意識から解放されて、まさにこの典礼を通してその瞬間にイエス様を中心として、その恵みに信頼する。そういう意味で神様との恵みの一致を、絶えずそこに希望を置き続けることが大切のように思います。わたしたちが偽りの謙遜ではなく、神の前に誠の謙遜を、洗礼を通して呼びかけられ、それに応える力も神様がくださるんだってという信頼のうちに、神と繋がり、そして他の人と繋がっていく生き方へと導かれますように、変わることができますように、わたしたちの中心におられるイエス様の呼びかけに絶えず耳を傾け続けたいと思います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>